



## 天体会議

「それではこれより重要会議を開始します。」  
議長のサン・クロフォードが言った  
この会議は毎年開かれる大きな会議だ  
議長は昔からサン氏が承っている  
「出席確認をします返事をしてください」  
サン氏が出席を確認している  
左からマーキュリー・ルーファス、ヴィーナス・フェイン  
私の隣の席がアース・ルーズリー  
今年も彼は欠席だ  
そして私、マーズ・ガイレル  
私の左の席に座っているのがジュピター・E・ローズ  
続いてサターン・レイフリー、ウラネス・レイチェルン、ネプチューン・クリトス  
そして一番端にいるのがプルート・F・レスター  
なぜか何年かごとにネプチューン氏とプルート氏の座席の位置が入れ替わる

「今年の議題です、スクリーンを見て下さい。」  
サン氏自慢の巨大スクリーンが出てきた  
そのスクリーンはサン・ピースと呼ばれ  
縦、おそらく200sh（シュイン）、横は350shほどあるだろう  
おっとこれは私のところの単位でした  
共通の単位でいうと  
縦、350cm、横、500cmというところだ  
「今年の議題を説明します。」  
「一つ目は来年からネプチューン氏とプルート氏の座席が入れ替わります。」  
「質問！」  
マーズ氏だ相変わらず元気のいい男だ  
「何でしょう？」  
「なぜ座席を入れ替えるのですか？」  
私も同感だ  
「理由はあなたに言っても理解出来ないでしょうから説明しません。  
なぜならネプチューン、プルートでさえその理由を知らないのだから。」  
「・・・・・・・・」  
「他に質問はありますか？」  
「それでは二番目の議題はこちらです。」  
「来年の4月にウェイル・サザンリス氏は訪れます。  
彼女は非常に美しいそうで期待しましょう。」  
みんなは驚いた  
ウェイル・サザンピースは我々の流星的存在で  
十年に一度我々の元に来るのだが  
その美しさは言葉では説明せきないほどだ  
「さて本題に入る。」  
皆息をのんだ  
「アース氏がヒューマン $\gamma$ 型という病気にかかっています。」  
「それは新種の病気ですか。」  
サターン氏は相変わらずずすどい  
「皆さんヒューマン $x$ 型は知っていますね。」  
ヒューマン $x$ 型という病気はいわばガンのような病気で  
過去にオスブレット・フェイタン氏が亡くなっている  
「ヒューマン $\gamma$ 型というのは $x$ 型の改良種らしく従来の治療では完治は不可能だそうです。」  
「それではアース氏の症状を報告します、スクリーンをご覧ください。」  
その内容が恐ろしかった  
・症状1、吐息から多量のco2を採取  
・症状2、平熱の極端な上昇  
・症状3、体内の汚染  
・症状4、排泄物の有毒化  
目をつぶりたくなるような症状だ  
「このウィルスを撲滅させる方法はないのですか？」

私はたまたま尋ねた

「あります、しかしそれはあまりにも強力なので  
アース氏自身も傷付けてしまう可能性があります。

「どのような方法ですか。」

「はい、強力は毒をまくのです。

しかし、ヒューマン $\gamma$ 型は善意を持ったウィルスもあるらしく、

善意のウィルスが増えてくるようなら、薬はやめましょう。

善のウィルスはアース氏の状態をよくしてくれるはずですよ。きっとね。」